

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足

②1～4号機タンク貯蔵量

・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
・蒸発濃縮装置は全台停止中

③5、6号機滞留水貯蔵量

・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量

・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約1,760 m ³	-※7
2号機	約3,920 m ³	T.P.-1,307
3号機	約4,340 m ³	T.P.-1,249
4号機	約4,220 m ³	T.P.-1,142
合計	約14,240 m ³	

(合計):-450[m³/4週] (合計):-190[m³/週]

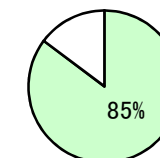
貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約13,930 m ³	T.P.2,557
高温焼却炉建屋	約3,080 m ³	T.P.299
合計	約17,010 m ³	

(合計):-1030[m³/4週] (合計):-1100[m³/週]

	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	862 m ³	1,200 m ³
SPT(B)	1,485 m ³	3,100 m ³
合計	-542[m ³ /4週]	(合計):-65[m ³ /週]

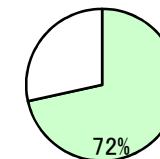
④廃棄物発生量

廃スラッジ



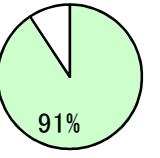
保管量:597/700[m³]*3

使用済ベッセル



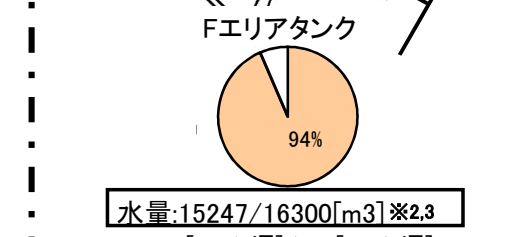
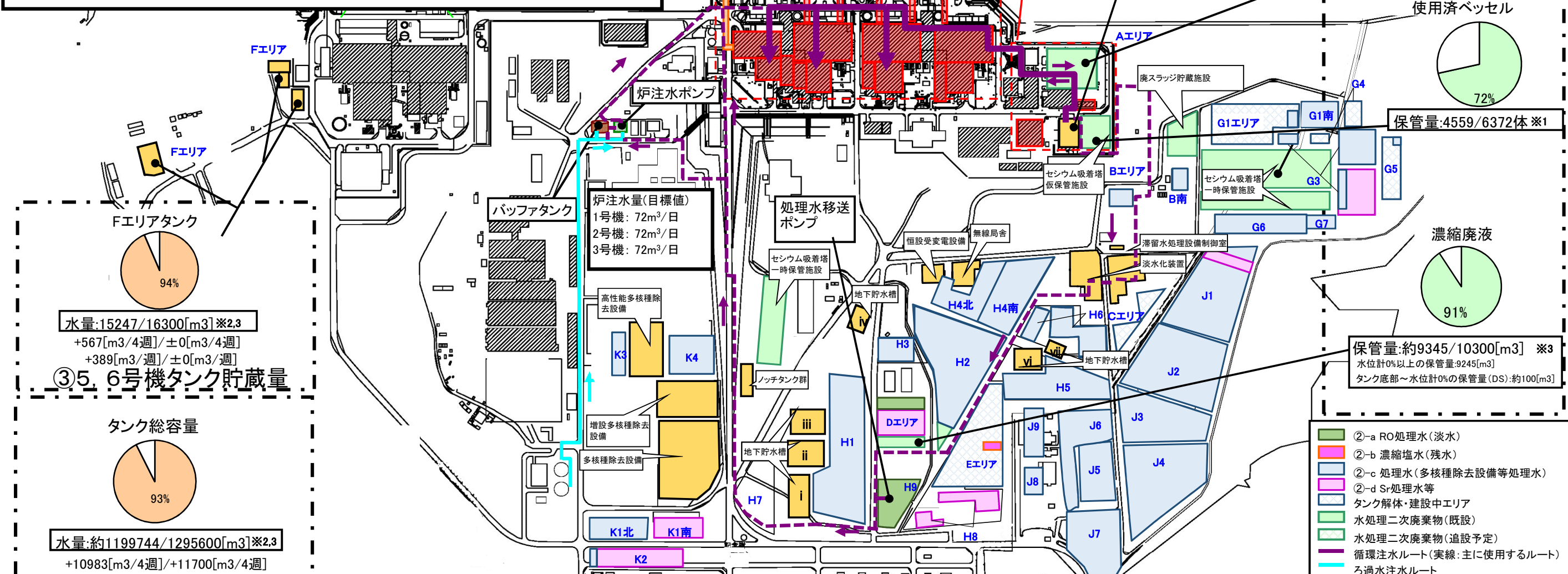
保管量:4559/6372体*1

濃縮廃液

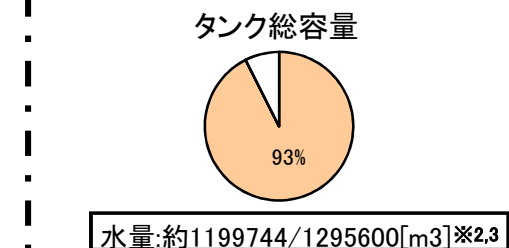


保管量:約9345/10300[m³]*3
水位計0%以上の保管量:9245[m³]
タンク底部～水位計0%の保管量(DS):約100[m³]

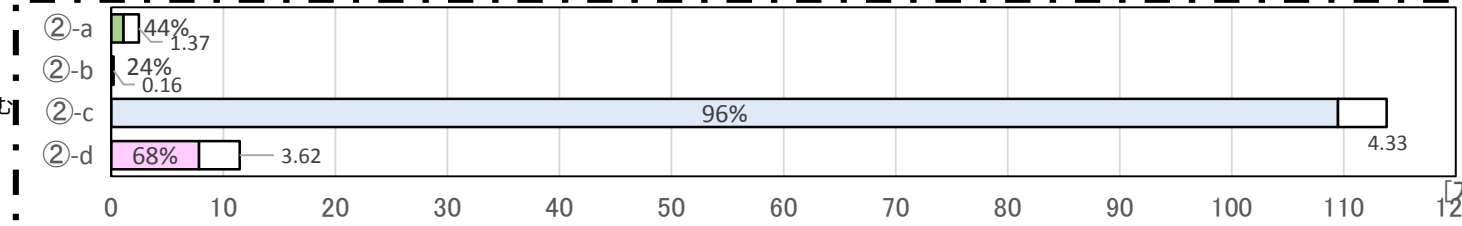
- ②-a RO処理水(淡水)
- ②-b 濃縮塩水(残水)
- ②-c 処理水(多核種除去設備等処理水)
- ②-d Sr処理水等
- タンク解体・建設中エリア
- 水処理二次廃棄物(既設)
- 水処理二次廃棄物(追設予定)
- 循環注水ルート(実線:主に使用するルート)
- ろ過水注水ルート



③5、6号機タンク貯蔵量



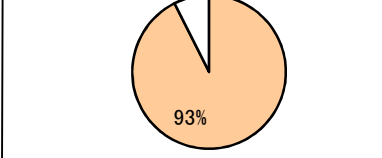
②タンク貯蔵量合計(②+③)



②-a RO処理水(淡水)	②-b 濃縮塩水(残水)	②-c 処理水(多核種除去設備等処理水)	②-d Sr処理水等
水量:約10855/24600[m ³]*2,3 水位計0%以上の水量:9955[m ³] タンク底部～水位計0%の水量(DS):約900[m ³] +2720[m ³ /4週]/+12000[m ³ /4週] +588[m ³ /週]/±0[m ³ /週]	水量:約500/2100[m ³]*2,3 水位計0%以上の水量:約400[m ³] タンク底部～水位計0%の水量(DS):約100[m ³] ±0[m ³ /4週]/±0[m ³ /4週] ±0[m ³ /週]/±0[m ³ /週]	水量:約109499/1138200[m ³]*2,3,4,6 水位計0%以上の水量:1092949[m ³]*8 タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2000[m ³] +14802[m ³ /4週]/+17800[m ³ /4週] +4476[m ³ /週]/+1300[m ³ /週]	水量:約78193/114400[m ³]*2,3 水位計0%以上の水量:77793[m ³]*8 タンク底部～水位計0%の水量(DS):約400[m ³] -7106[m ³ /4週]/-18100[m ³ /4週] -2542[m ³ /週]/±0[m ³ /週]

②1～4号機タンク貯蔵量

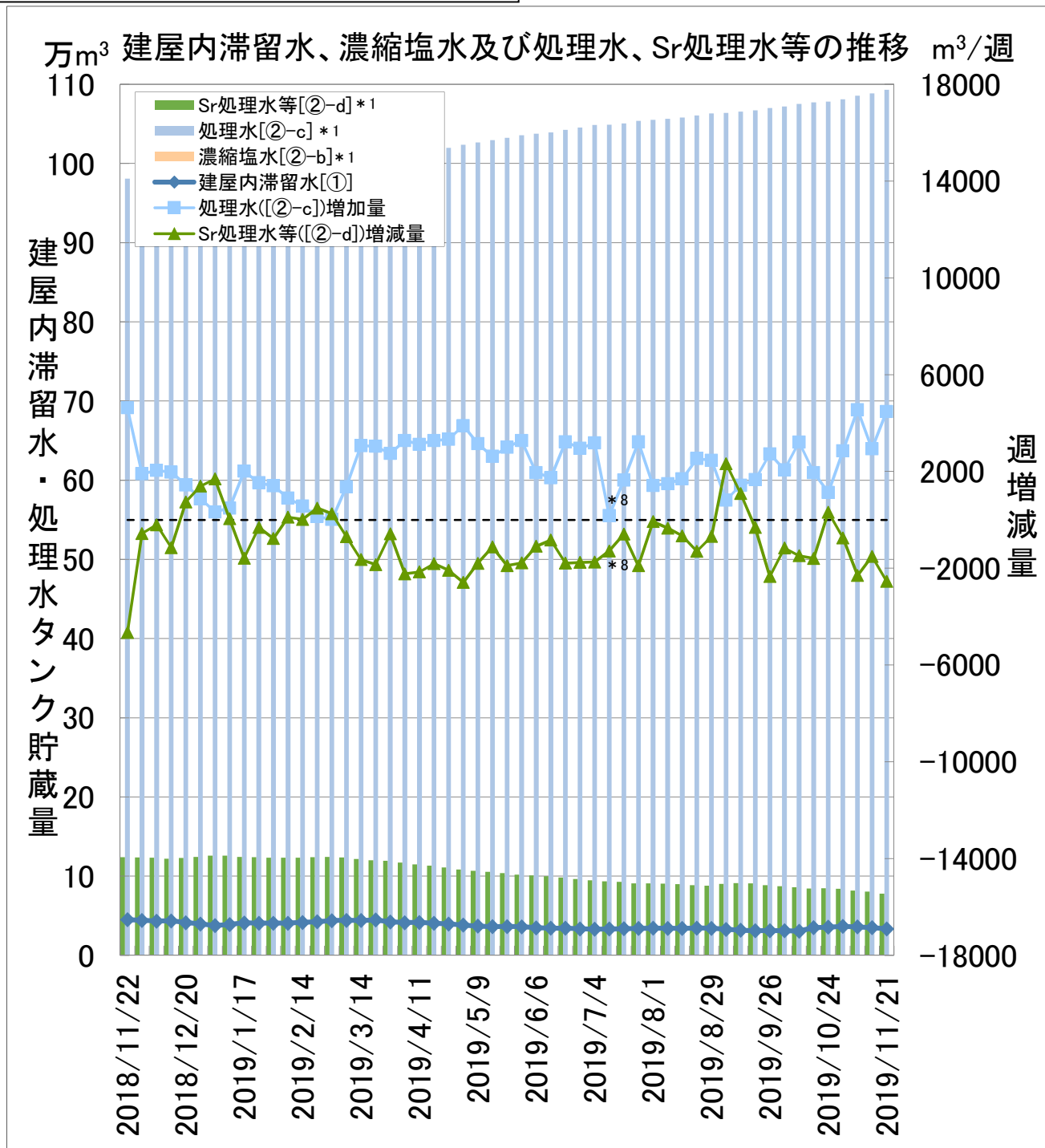
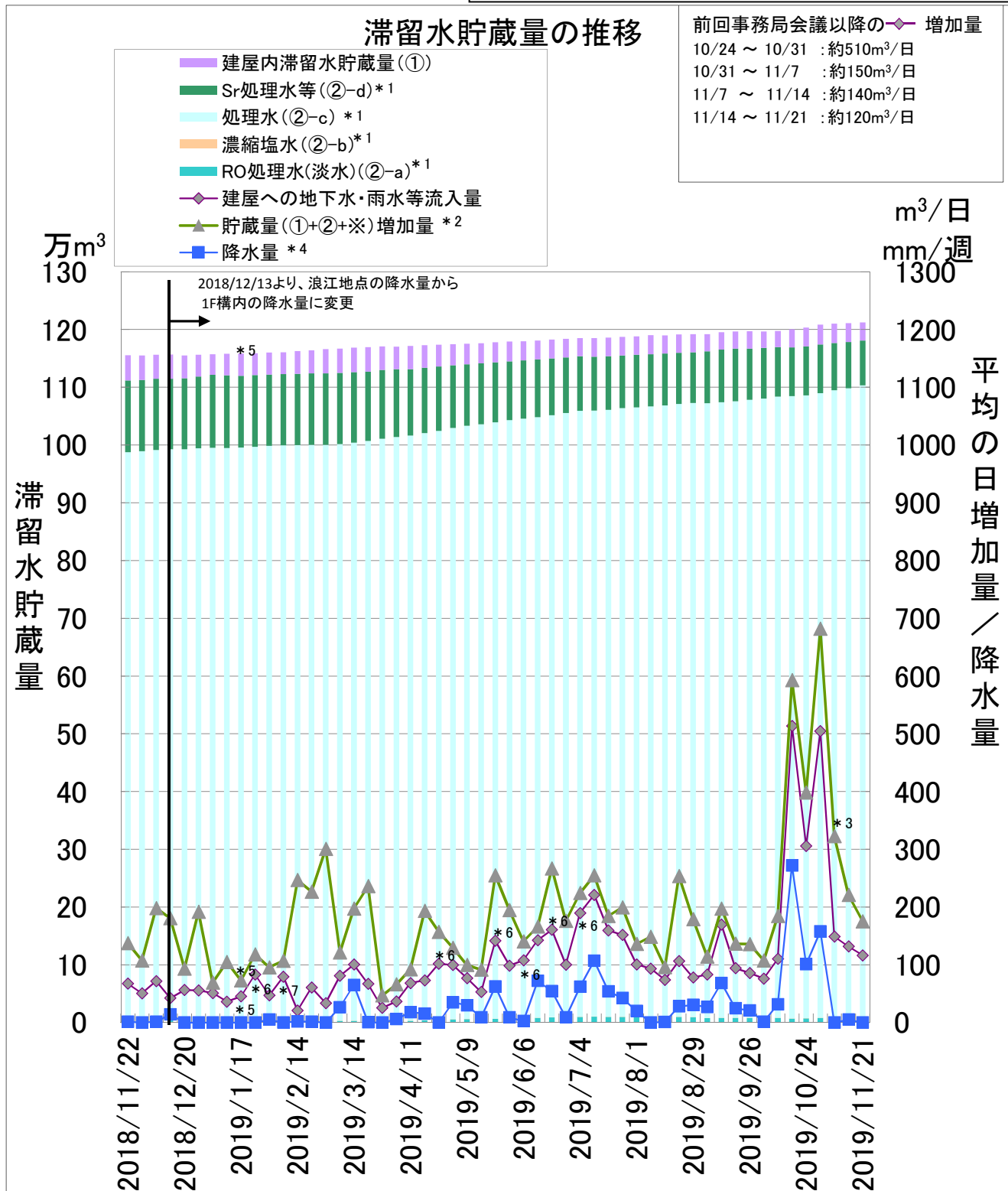
1～4号機タンク総容量



建屋内貯蔵量
+
1～4号機タンク貯蔵量
(①+②)

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む
※2 装置稼働中につき水位が安定しないため参考扱い
※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記)
※4 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
※5 ウェルポイント・地下水ドレン(約130m³/週)、その他移送量(約230m³/週)の合計約360m³/週を含む(端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある)
※6 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む
※7 1号機T/Bはすでに水抜きが完了しているため、水位を「-」表記
※8 フランジ型タンクに貯蔵するSr処理水の処理完了(2018/11/17)フランジ型タンクに貯蔵する多核種除去設備等処理済水の移送完了(2019/3/27)。引き続き、残水処理を進める観点から、以後、フランジ型タンクのタンク底部～水位計0%の水量(DS)は水位計0%以上の水量に含める

滞留水の貯蔵状況の推移

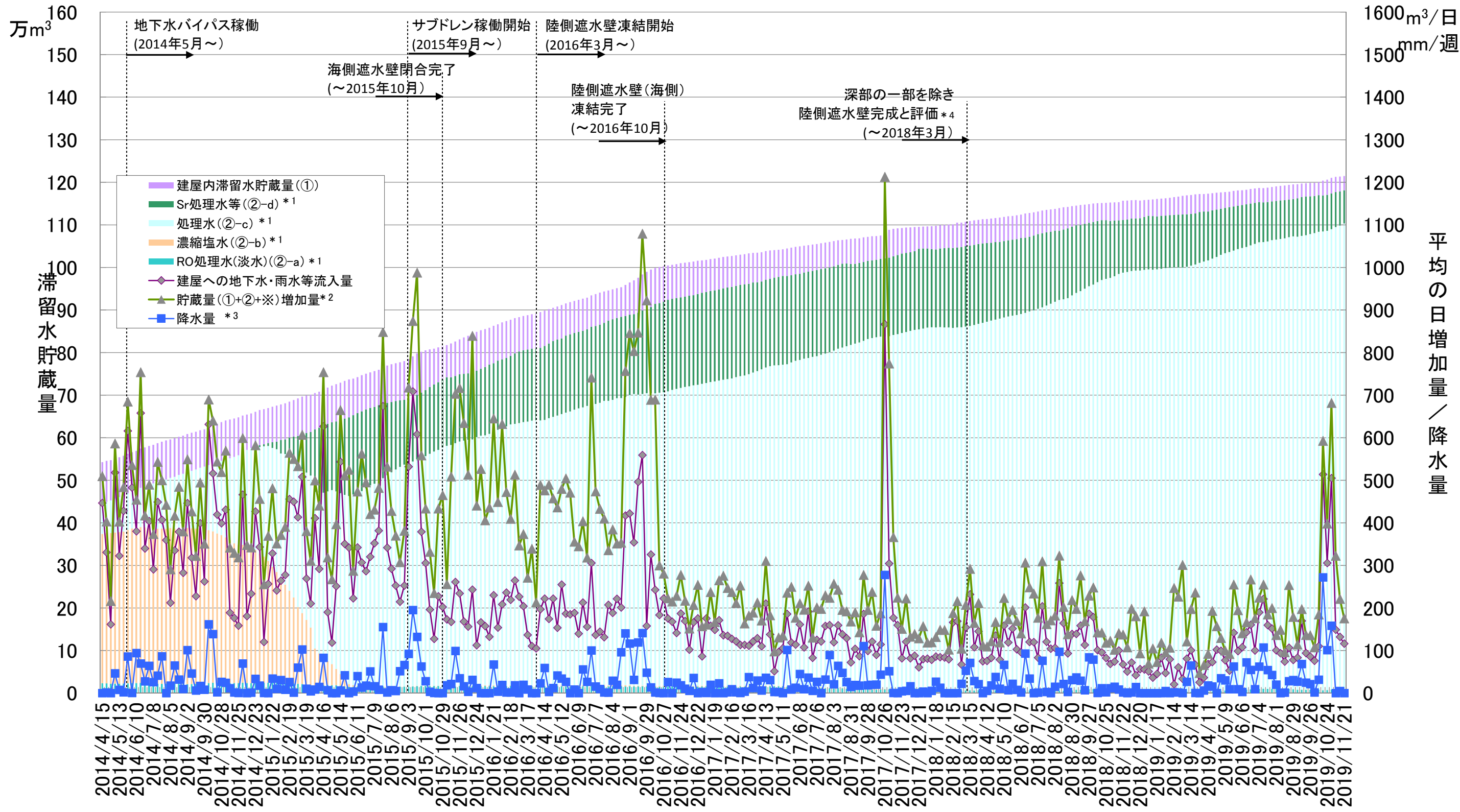


①: 建屋内滞留水貯蔵量(1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))
 ②: 1~4号機タンク貯蔵量〔(②-a)RO処理水(淡水)〕+〔(②-b)濃縮塩水〕+〔(②-c)処理水〕+〔(②-d)Sr処理水等〕
 ※: タンク底部から水位計0%までの水量 (DS)
 * 1: 水位計0%以上の水量
 * 2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)
 [(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)]
 * 3: 廃炉作業に伴う建屋への移送により貯蔵量が増加。
 (移送量の主な内訳は①地下水ドレンRO濃縮水をタービン建屋へ移送: 約80m³/日、②ウェル・地下水ドレンからの移送: 約50m³/日、③5/6号SPTからプロセス主建屋へ移送: 20m³/日、他)
 * 4: 2018/12/13より浪江地点の降水量から1F構内の降水量に変更。
 * 5: 2019/1/17より3号機C/B滞留水を建屋内滞留水貯蔵量に加えて管理。建屋への地下水・雨水等流入量、貯蔵量増加量については2019/1/24より反映。
 * 6: 建屋内滞留水の水位低下の影響で、評価上、建屋への地下水・雨水等流入量が一時的に増加したものと推定。(2019/1/17,2019/4/22,2019/5/16,2019/5/30,2019/6/13,2019/6/27)
 * 7: 建屋水位計の取替えを実施。(2019/2/7~2019/3/7)
 * 8: タンクエリア毎に、タンク水量・容量の算出方法が異なっていたため、全エリアのタンク水量・容量算出方法を統一。統一に伴い、計算上、処理水増加量及びSr処理水等増減量変動しているが実際の処理量は、処理水: 約2200m³/週、Sr処理水等: 約1100m³/週。(2019/7/11)

処理水	累積処理水	期間処理水		定格処理量
	[m3]	[m3/週]	[m3/日] ^{注1)}	[m3/日]
既設多核種除去設備 ^{注2)}	420,210	1,777	254	750以上
増設多核種除去設備 ^{注2)}	603,569	2,699	386	750以上
高性能多核種除去設備	102,556	0	0	500以上
高性能 検証試験装置	1,128	0	0	50
Sr処理水等	期間処理水		定格処理量	
	[m3/週]	[m3/日] ^{注1)}	[m3/日]	
セシウム吸着装置	1,830	261	600	
第二セシウム吸着装置			1200	
第三セシウム吸着装置			600	

注1) 週間の平均値
 注2) 既設・増設多核種除去設備処理水の一部は、残水があるRO濃縮塩水タンクに移送し、Sr処理水等として貯蔵

滞留水の貯蔵状況の推移(長期グラフ)



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))

②: 1~4号機タンク貯蔵量
 ([②-aRO処理水(淡水)]+[②-b濃縮塩水]+[②-c処理水]+[②-dSr処理水等])

※: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

*1: 水位計0%以上の水量
 *2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)
 [(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)]
 *3: 2018/12/6まで浪江地点の降水量を使用していたが、2018/12/13より1F構内の降水量に変更
 *4: 深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了